

## 水稻出穂期以降のアカスジカスミカメ防除対策

### 【1 成果概要】

出穂期以降の草刈時期：穂揃期約1週間後に薬剤散布し、散布後おおむね1週間以内（残効期間内）に畦畔草刈を実施することにより、アカスジカスミカメ(図1)による斑点米被害(図2)を低く抑える(1等米ランク)ことができます。

追加防除時期：穂揃期1週間後にジノテフラン剤を茎葉散布した圃場では約2週間の残効が見込まれます。このため、追加防除が必要な場合には、穂揃期3週間後に茎葉散布することで斑点米被害を低く抑えることができます。



図1 アカスジカスミカメ成虫



図2 斑点米被害

出穂期以降の草刈時期：穂揃期約1週間後の薬剤散布後、おおむね1週間以内

追加防除時期：ジノテフラン剤(スタークル、アルバリン)を穂揃期1週間後に茎葉散布した圃場では約2週間の残効が見込まれるため、追加防除時期は穂揃期3週間後とする。

### 【2 効果】

防除体系の構築に貢献します(表1)。

表1. アカスジカスミカメに対する主な防除体系

防除の種類	番号	内容
耕種的防除	①	水田内雑草の防除徹底
	②	アカスジが繁殖する牧草は開花期頃までに刈取
	③	効果的な畦畔草刈時期 (1)越冬世代孵化盛期(6月上旬頃) (2)水稻出穂15-10日前 <b>(3)薬剤散布後の1週間以内(新知見)</b>
薬剤防除	①	基本防除は穂揃期1週間後
	②	追加防除は穂揃期2週間後(割れ糶の多い品種、水田雑草多、アカスジ発生高い)。 <b>ただし、ジノテフラン剤を1回目に散布した圃場では穂揃期3週間後に追加防除(新知見)</b>
	③	全面散布を実施
	④	一斉防除する際は、出穂時期が中間の圃場を基準に

### 【3 留意事項】

- (1) 追加防除が必要な場合とは、割れ糶の多い品種(あきたこまち等)、水田雑草が多い圃場、アカスジ発生密度が高い場合を指します。
- (2) 水田雑草の除草を徹底し、水稻出穂15~10日前の畦畔除草を確実に実施してください。
- (3) データを詳しくお知りになりたい方は、「平成24年度試験研究成果」をご覧ください。